

寺田遺跡14次発掘調査報告書

2023年3月

近江八幡市

2023年3月
近江八幡市

寺田遺跡14次発掘調査報告書

2023年3月

近江八幡市

序

近江八幡市は、織田信長が天下布武の拠点として築城した特別史跡安土城跡、弥生時代の水田や関連遺物が出土する史跡大中の湖南遺跡、滋賀県内で最大級の前方後円墳である史跡瓢箪山古墳、3面の三角縁神獣鏡を含む5面の古鏡が出土した史跡雪野山古墳、万葉集以降景勝地として数々の和歌が詠まれている史跡老蘇森、近江国守護佐々木六角氏の居城である史跡観音寺城跡という全国的にも有名な国指定史跡が6箇所あるなど、非常に豊かな文化財に恵まれています。当市では、この豊かな文化財の一層の保護・活用を進めてまいりたいと考えています。

本書は、近江八幡市が令和3年度に江頭町で実施した寺田遺跡14次調査の成果を記したものです。調査によって得られた資料は、ひとつひとつが市民の皆様の貴重な歴史資産であり、調査の積み重ねが、近江八幡市の歴史解明に繋がってまいります。本報告書が今後の埋蔵文化財に対する認識と理解を深める一助になれば幸いです。

最後に、各発掘調査において調査にご協力いただいた関係の皆様には厚く感謝申し上げます。

令和5年3月

近江八幡市長 小 西 理

例 言

1. 本報告書は、滋賀県近江八幡市の緊急発掘調査のうち、令和3年度に現地調査を実施した寺田遺跡14次調査の成果を令和4年度にまとめた報告書である。
2. 現地調査は、令和3年度に近江八幡市が主体となり実施した。
3. 本書で使用した方位・座標は、平面直角座標第VI系に基づき、座標値は世界測地系に基づく数値である。標高は東京湾平均海面高度を基準としている。
4. 本報告書掲載の現地発掘調査及び暫定整理調査にかかる経費は、受託事業として原因者が負担した。
5. 本調査の現地調査・報告書執筆・写真撮影は森山宗保が、編集は文化振興課が行った。
7. 本書に掲載した図面及び写真・出土遺物は、近江八幡市が主体となり管理している。
8. 現地調査にあたっては、土地所有者等をはじめ関係各機関のご協力を得た。

目 次

序	
例言	
はじめに	2
第1章 位置と環境	2
1. 遺跡の地理的環境	2
2. 遺跡の歴史的環境	4
第2章 寺田遺跡14次調査	4
1. 調査の経過	4
2. 遺構・遺物	4
(1) 1調査区の遺構・遺物	4
(2) 2調査区の遺構・遺物	11
おわりに	18

表目次

表1 寺田遺跡既往調査	2
表2 出土遺物観察表	21～23

挿図目次

第1図 調査地点図	1
第2図 寺田遺跡と周辺の遺跡	3
第3図 寺田遺跡14次調査地点及び 寺田遺跡既往調査地点図	5
第4図 遺構全体図	6
第5図 1調査区 平面図 (1)	8
第6図 1調査区 平面図 (2)	9

第7図 1調査区 断面図 (1)	10
第8図 1調査区 断面図 (2)	11
第9図 2調査区 平面図 (1)	13
第10図 2調査区 平面図 (2)	14
第11図 2調査区 平面図 (3)	15
第12図 2調査区 断面図 (1)	16
第13図 2調査区 断面図 (2)	17
第14図 1調査区 出土遺物	18
第15図 2調査区 出土遺物 (1)	19
第16図 2調査区 出土遺物 (2)	20

構図版

図版1	1・2調査区 全景 (俯瞰)
図版2	1調査区 全景 (俯瞰) / 1調査区 全景 (西から)
図版3	1調査区 SK1-2 (北から) / 1調査区 P1-28 (北西から)
図版4	2調査区 全景 (俯瞰) / 2調査区 全景 (東から)
図版5	2調査区 SK2-8 (北東から) / 2調査区 SR2-2 (北西から)

遺物図版

図版6	1調査区 出土遺物
図版7～12	2調査区出土遺物 / 1・2調査区出土遺物 (写真のみ掲載)



第1図 調査地点図

はじめに

寺田遺跡は、近江八幡市小田町、江頭町、十王町に広がる集落遺跡である。これまで13回の調査が行われ、奈良時代から平安時代、鎌倉時代から室町時代と、複数の時期の遺構が確認されている。1次調査は現在の小田神社拝殿の建て替えに伴い行われ、平安時代から近代にかけて7面の遺構面が確認されている。第7遺構面から10世紀頃と考えられる「神殿」と書かれた墨書土器とそれに伴う溝が確認されている。今回の調査地は1次調査地から南東に500mほど離れた場所にあたる。

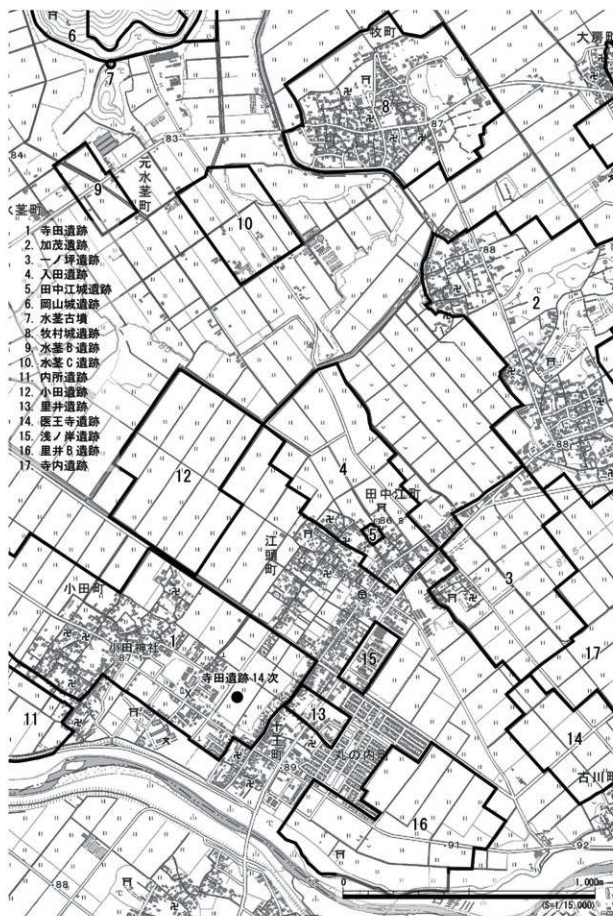
第1章 位置と環境

1. 遺跡の地理的環境

寺田遺跡は日野川下流右岸の沖積地に位置し、標高は海拔86.00m～87.00mを測る。寺田遺跡が分布する小田町、十王町、江頭町は近江八幡市北西部の北里学区に位置し、各集落を南北方向に国道167号線が、十王町、江頭町は東西方向に県道2号線が通る。小田町の集落には式内社小田神社が鎮座し、小田神社の楼門は重要文化財の指定を受けている。

調査 回数	所在地	調査期間	調査原因	調査面積 (㎡)	対象面積 (㎡)	調査概要	掲載報告書
1次	小田町 54	1985年6月20日～ 1985年7月31日	小田神社拝 殿新築	105.00	105.00	現代から平安時代(10世紀)にかけての7面の遺構面を確認。第4面で小田町の遺構あり。第7遺構面から「神殿」墨書の平安時代須恵器跡が出土した。	近江八幡市埋蔵文化財発掘調査報告書X
2次	小田町 48-5	1988年1月8日～1988 年1月19日	個人住宅	23.50	351.40	北里村役場の場所。平安時代の溝2条を確認した。	近江八幡市埋蔵文化財発掘調査報告書XXI
3次	小田町大字 53-5、 57-5、48-3	1989年1月11日～ 1989年1月27日	個人住宅		297.15	平安時代の溝1条などを確認した。	-
4次	江頭町字長光寺 1152-1、1153-1	1989年4月7日～ 1989年5月8日	個人住宅	47.84	356.00	13～14世紀代の掘立建物3棟と土壇、ピットを確認した。	近江八幡市埋蔵文化財発掘調査報告書XXI
5次	江頭町妙泉坊 947-2	1990年5月28日～ 1990年6月21日	個人住宅	50.00	600.00	鎌倉時代のピット、土壇、落ち込みを確認した。	近江八幡市埋蔵文化財発掘調査報告書XXII
6次	十王町字円満寺 925-1 他	1993年12月21日～ 1994年6月7日	宅地造成		5063.00	土壇(内一部は火葬墓)と古墳時代前期の自然流路を確認した。	-
7次	小田町 894-3 番地	1994年4月19日～ 1994年5月17日	個人住宅	120.00	415.00	鎌倉時代後期(13～14世紀)の溝2条、土壇を確認した。下層で古墳前期の遺物が出土した。	近江八幡市埋蔵文化財発掘調査報告書29
8次	江頭町妙泉坊 946-5、 6 番地	1994年5月18日～ 1994年6月1日	個人住宅	56.00	176.73	鎌倉時代後期(13～14世紀)の溝6条とピット14基を確認した。	近江八幡市埋蔵文化財発掘調査報告書29
9次	小田町字高塚 905-2 番地	1994年6月6日～ 1994年8月8日	個人住宅	438.90	732.66	小田城推定地。ピット、溝5条、土壇1基、井戸3基、掘立建物1棟を確認した。	近江八幡市埋蔵文化財発掘調査報告書29
10次	小田町 903 番地	1994年6月22日～ 1994年7月4日	個人住宅	7.15	61.57	中世後期のピット13基、溝1条、土壇1基を確認した。	近江八幡市埋蔵文化財発掘調査報告書29
11次	小田町 73 番地	1994年8月10日～ 1994年8月12日	個人住宅	9.60	375.48	中世後期のピット1基と土壇2基を確認した。	近江八幡市埋蔵文化財発掘調査報告書29
12次	江頭町字妙泉坊 953 番 4	2015年11月19日～ 2015年12月7日	個人住宅	53.93	74.95	奈良時代の自然流路と鎌倉時代前期のピット、土壇、溝、江戸時代頃の噴砂跡を確認した。	近江八幡市埋蔵文化財発掘調査報告書57
13次	小田町字馬場 40 番 2	2017年4月26日～ 2017年7月31日	分譲住宅	630	1,554.83	奈良時代から現代まで複数の時代の遺構を確認した。奈良時代の平瓦が出土した。	近江八幡市埋蔵文化財発掘調査報告書61

表1 寺田遺跡既往調査



第2図 寺田遺跡と周辺の遺跡

2. 遺跡の歴史的環境（第2図）

寺田遺跡とその周辺では、古くは弥生時代から室町時代まで幅広い時代の遺構や遺物が周知または確認されている。遺跡の分布状況としては寺田遺跡の西に高提遺跡、野村城遺跡、内所遺跡、東に小田遺跡、里井遺跡、里井B遺跡、浅ノ岸遺跡が分布している。

弥生時代については、小田遺跡が遺物の散布地として周知されている。古墳時代については、寺田遺跡と浅ノ岸遺跡において遺構、遺物が確認されていて、内所遺跡が遺物の散布地として周知されている。飛鳥時代については、寺田遺跡で平瓶などの遺物が出土している他に高提遺跡が遺物の散布地として知られている。奈良時代については、寺田遺跡で流路が確認されている他に里井遺跡や里井B遺跡において遺構、遺物が確認されている。平安時代については、寺田遺跡1次調査で「神殿」と書かれた墨書土器が確認されている。鎌倉時代については寺田遺跡、里井遺跡、里井B遺跡においても確認されている。室町時代については、寺田遺跡、高提遺跡、野村城遺跡において遺構、遺物が確認されている。

第2章 寺田遺跡14次調査

1. 調査の経過

調査地は近江八幡市江頭町字竹ノ鼻 608 番、608 番 3、608 番 4、字永福寺 2079 番、2080 番、2081 番、2082 番、2083 番、2084 番、2085 番、2090 番、2091 番の一部、2092 番、2093 番、2094 番の一部、2096 番、2097 番の一部、字小西 2100 番の一部、十王町字鯛ノ町 782 番 1、782 番 2、783 番、783 番 1、字新海 882 番 1、882 番 3、889 番、890 番、891 番 1、891 番 2、891 番 3、字御子 1197 番、1198 番、1199 番、1200 番、1201 番、1202 番 1、1202 番 2、1203 番、1204 番、1205 番、1208 番、1216 番、1217 番、1218 番、1219 番、字新海 1220 番 1、1220 番 2、1220 番 3 の一部、1220 番 5、1221 番 1、1222 番 1、1223 番 1、1224 番 1、1225 番 1、1226 番 1、1227 番 1、1227 番 3 の一部、1228 番 1、1228 番 3、1229 番 2 の一部に所在する。令和 2 年 9 月 2 日付で分譲住宅、宅地造成、公園造成、管理設に伴う埋蔵文化財発掘調査依頼が提出された。当該地が寺田遺跡の包蔵地内であったことから、令和 2 年 11 月 19 日から 11 月 26 日に試掘調査を実施し、試掘調査の結果、流路、溝、Pit などの遺構と遺物を確認したため、令和 3 年 4 月 9 日から 5 月 28 日まで本調査を実施した。本調査の調査費用は、原因者である株式会社中尾ハウジング（代表取締役 中尾 武氏）が全額負担した。調査対象面積は 54,573.37 m²で、そのうち対象となる調査地は試掘調査で遺構が確認された道路部分を対象としている。調査実施面積は 663.6 m²である。

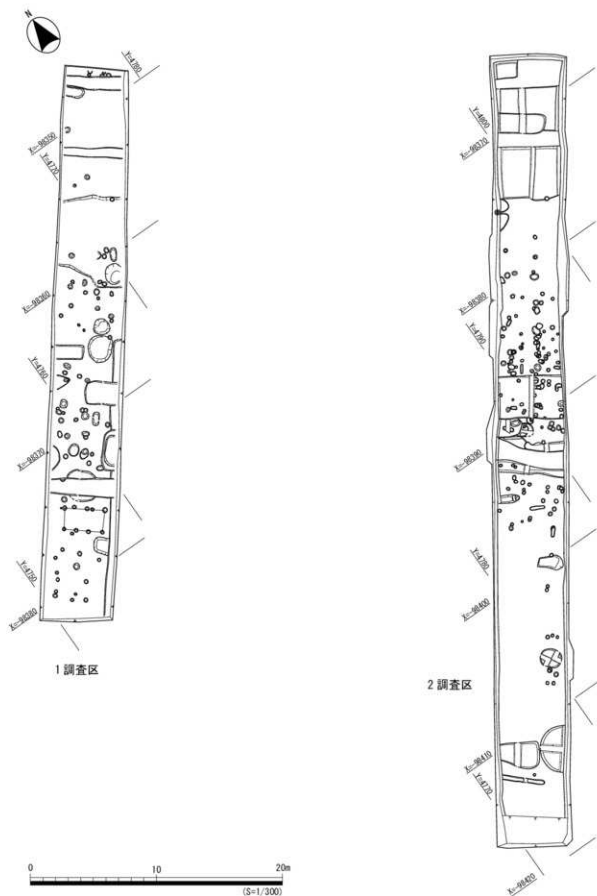
2. 遺構・遺物

(1) 1 調査区の遺構・遺物（第4～8・14図 表2 写真図版1～3・6・12）

試掘調査の結果、遺構の認められた部分を中心に2つの調査区を設定した。1 調査区はその2つのうち北西側に位置する。調査の結果、灰色粘質土と灰白色粘質土の下、にぶい黄色粘質土層上面で遺構を確認した。遺構検出面の標高は約 86.1m である。



第3図 寺田遺跡14次調査地点及び寺田遺跡既往調査地点図



第 4 図 遺構全体図

SB1-1

調査区南側で検出した掘立柱建物で、梁間1間、桁行3間の規模で、N-40°-Eの方向軸を持つ。東側のSD1-3と方向軸が同じであることから関連性が考えられる。柱穴は20cm～25cmの深さを測り、埋土は黄灰色粘質土である。P1-35から土師器片が出土しており室町時代前期頃と考えられる。

SK1-1

調査区中央で検出した平面形状が円形の土壌である。直径130cm、深さ32cmを測り、黄灰色粘質土と灰黄色粘質土が堆積する。土師器片が出土しており、鎌倉時代前期頃と考えられる。

SK1-2

調査区中央で検出した平面形状が楕円形の土壌である。長辺210cm、短辺180cm、深さ30cmを測り、黄灰色粘質土と灰黄色粘質土が堆積する。土師器皿(1)が出土しており、鎌倉時代前期頃と考えられる。

SK1-3

調査区中央南東壁際で検出した土壌で、北東側を南壁、南西側をSK1-5に切られていることから全体の形状は不明である。深さ30cmを測り、黄灰色粘質土が堆積する。瓦質土器羽釜(2)が出土しており、鎌倉時代前期頃と考えられる。

SK1-5

調査区中央南東壁際で検出した平面形状が楕円形の土壌であるが、全体は検出されていない。南北330cm、東西70cm以上、深さ約30cmを測り、暗灰黄色粘質土、灰色粘質土が堆積する。土師器焙烙(3)が出土したが、陶器捏鉢(4)も出土しており、室町時代後期頃と考えられる。

SK1-9

調査区南西側で検出した平面形状が円形の土壌で、SD1-3に切られている。直径234cm、深さ20cmを測り、にぶい黄色粘質土が堆積する。土師器片、黒色土器片が出土しており、鎌倉時代前期頃と考えられる。

SD1-1

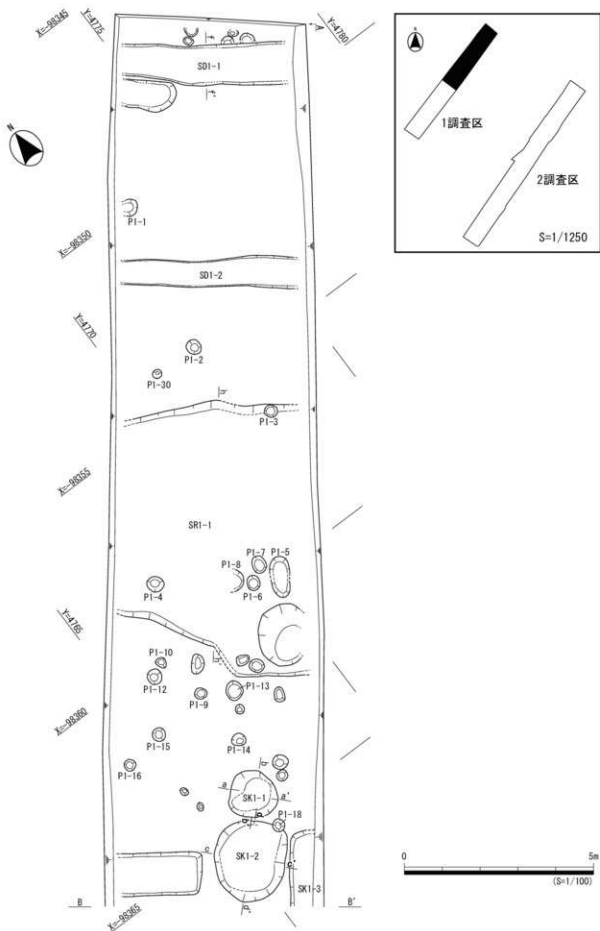
調査区北東隅で検出したN-40°-Eの方向軸を持つ、ほぼ現在と同じ地割方向の溝である。溝の幅は100cm、深さは12cmを測り、灰黄褐色粘質土が堆積する。土師器片等が出土しており、室町時代前期頃と考えられる。

SD1-2

調査区北東側で検出したN-40°-Eの方向軸を持つ、ほぼ現在と同じ地割方向の溝である。溝の幅は80cm、深さは40cmを測り、灰黄褐色粘質土が堆積する。遺物の出土はなく、時期は不明である。

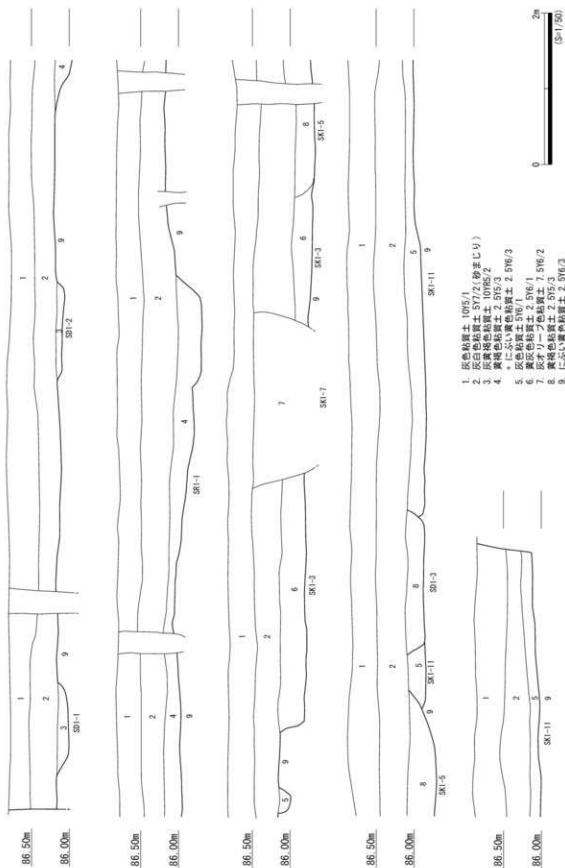
SD1-3

調査区南西側で検出したN-40°-Eの方向軸を持つ、ほぼ現在と同じ地割方向の溝である。SK1-9を切る。溝の幅は128cm、深さ12cmを測り、黄褐色粘質土と灰色粘質土が堆積する。

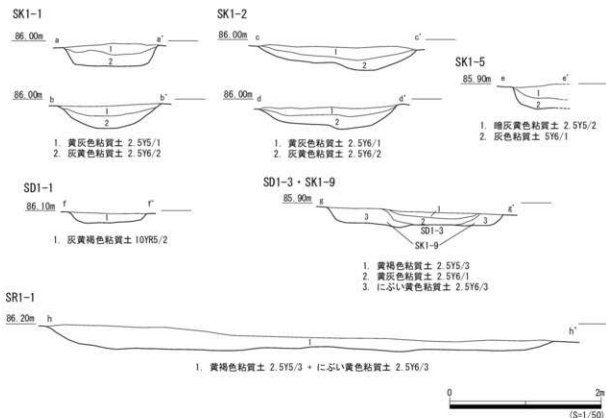


第5図 1調査区 平面図 (1)

南壁面



第7図 1 調査区 断面図 (1)



第 8 図 1 調査区 断面図 (2)

出土した黒色土器片は、切っている SK1-9 の遺物の可能性が高く、土師器片が出土していることから室町時代前期頃と考えられる。

SR1-1

調査区南西側で検出した南北方向に流れる流路である。検出した流路の最大幅は740cmで、深さ30cmを測り、黄褐色粘質土とにぶい黄色粘質土の混ざりが堆積する。土師器皿(5)や黒色土器碗(6)、土師器台付皿(7)が出土しており、鎌倉時代前期頃と考えられる。

1 調査区について他に Pit を確認しているが、建物跡の確認には至らなかった。遺構は SR1-1 から SD1-3 までの間に集中し、SB1-1 より南西側で少なくなっている。今回の本調査前の試掘調査では調査地より西側には落ち込みが広がり、遺構は見られなかった。

(2) 2 調査区の遺構・遺物 (第 4・9～13・15・16 図 表 2 写真図版 1・4・5・7～12)

2 調査区は 1 調査区の南西側に位置する。調査の結果、灰色粘質土と灰白色粘質土の下、にぶい黄色粘質土層上面で遺構を確認した。遺構検出面の標高は約 86.3m である。

SK2-3

調査区南西側で検出した土壌で、平面形状は円形と推測される。直径 370cm、深さ 28cm を測り、暗灰黄色粘質土、灰白色細砂と暗灰黄色粘質土の混ざり、灰色粘質土が堆積する。

焙烙 (16～18)、青磁碗 (15) が出土していることから室町時代後期頃と考えられる。

SK2-8

調査区北西壁で検出した土壌で、深さは排水溝までの約 20cm の深さである。土師器皿 (21～31)、土師器羽釜 (35)、黒色土器碗 (32～34) が出土していることから、鎌倉時代前期頃と考えられる。その他室町時代後期の土師器皿 (20) が出土しているが混入と考えられる。

SD2-1

調査区北東隅で検出した N-40°-E の方向軸を持つ、ほぼ現在と同じ地割り方向の溝である。溝の幅は約 350cm、深さは 20cm を測り、灰色粘質土が堆積する。灰オリーブ色粘質土が堆積する溝に切られる。土師器片、瓦質土器片、陶器が出土しており、室町時代前期頃と考えられる。

SD2-2

調査区中央で検出した溝で、N-40°-E の方向軸を持つが、中央付近より北へ緩やかに屈曲する。溝の幅は 60cm、深さは 24cm を測り、黄灰色粘質土、浅黄色粘質土と黄灰色粘質土の混ざりが堆積する。完形を含む同じ形状の土師器皿 (36～52) が集中して出土しており、祭祀等が行われた可能性が考えられる。時期は室町時代後期と考えられる。

SD2-3

調査区南西隅で検出した N-35°-E の方向軸を持つ溝である。幅 35cm、深さ 20cm を測り、黄灰色粘質土が堆積する。焙烙 (53) が出土していることから室町時代後期頃と考えられる。

SD2-5

調査区中央で検出した N-35°-E の方向軸を持つ溝である。溝は幅 60cm、深さは 12cm を測り、暗灰黄色粘質土と浅黄色粘質土の混ざりが堆積する。土師器皿 (54) が出土しており、室町時代後期頃と考えられる。

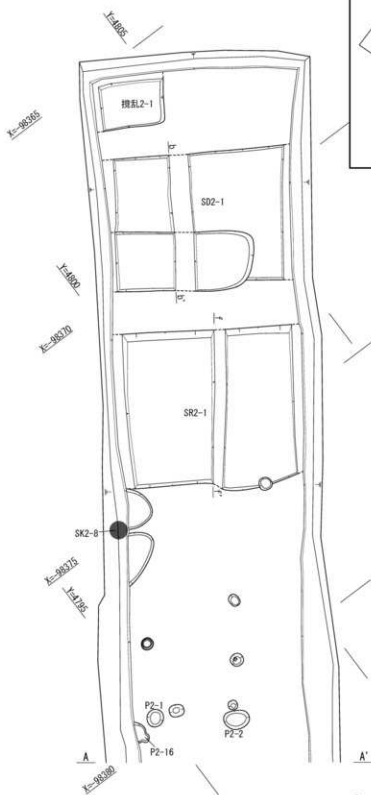
SR2-1

調査区北東側で検出した流路で、N-40°-E の方向軸を持つ。幅 420cm、深さ 44cm を測り、暗灰黄色粘質土、暗灰黄色粘質土とオリーブ黄色粘質土の混ざりが堆積する。黒色土器碗 (56)、土師器皿 (55、58)、焙烙 (57) が出土しており室町時代前期頃と考えられる。他に須恵器捏鉢 (59) が出土している。

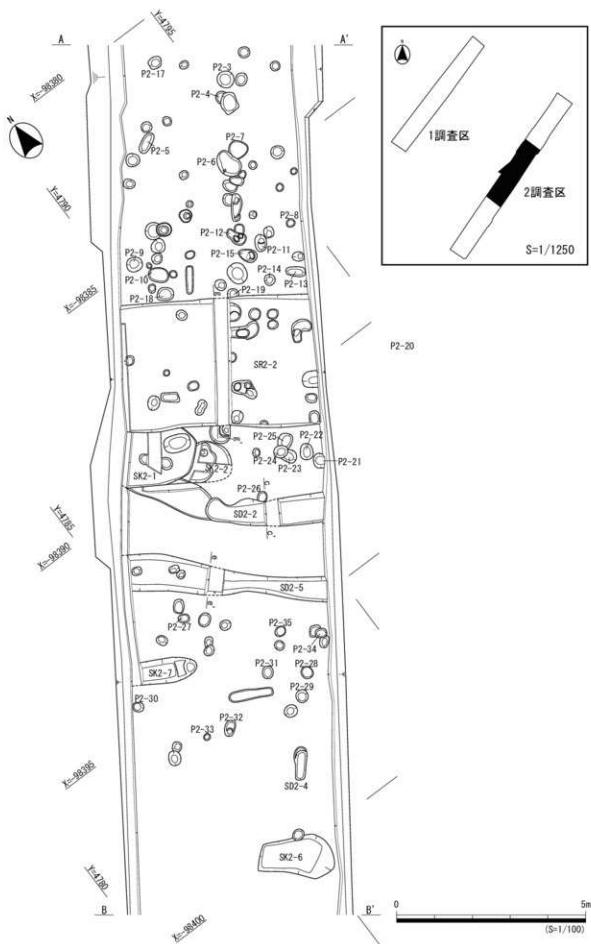
SR2-2

調査区中央で検出した流路で、N-40°-E の方向軸を持つ。幅 340cm、深さ 18cm を測り、黄褐色粘質土とにぶい黄色粘質土が堆積する。土師器皿 (60、61)、土師器台付皿 (62)、白磁皿 (63) が出土していることから鎌倉時代頃と考えられる。

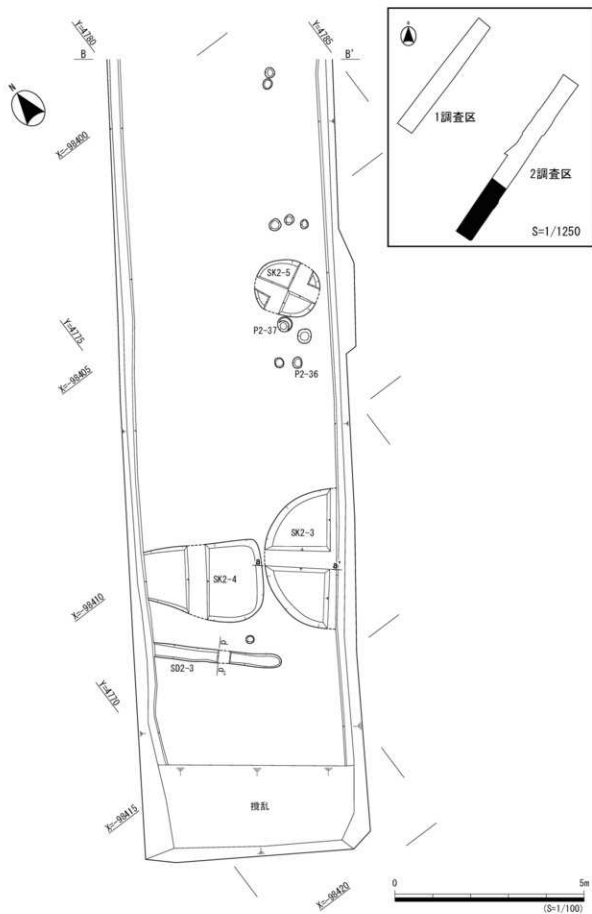
2 調査区について他に Pit を確認しているが、建物跡の確認には至らなかった。遺構は SR2-1 から SD2-5 付近の間に集中し、SK2-3 と SK2-4、SD2-3 の辺りが遺構検出の南西端となっている。2 調査区南西の端は攪乱を受けているが、試掘調査で確認したところ、この攪乱より南西側は落ち込みが広がっており、遺構は確認されていなかった。



第9図 2調査区 平面図(1)

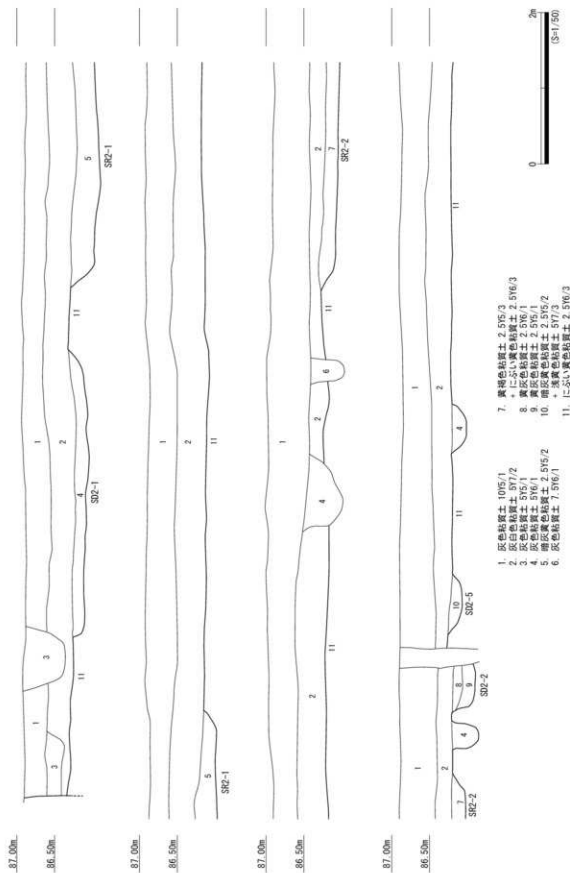


第10図 2調査区 平面図(2)



第11図 2調査区 平面図(3)

南壁面



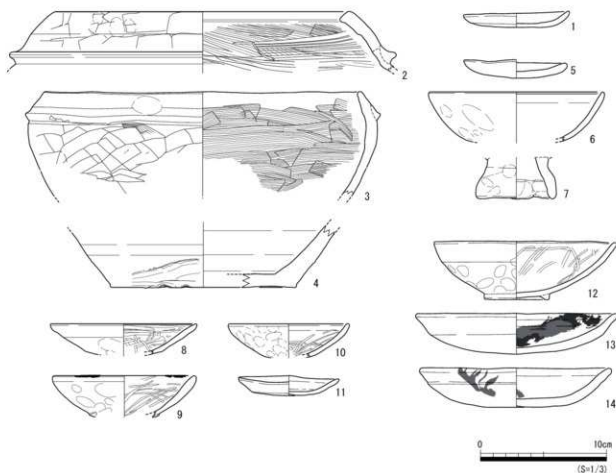
第12図 2調査区断面図(1)

おわりに

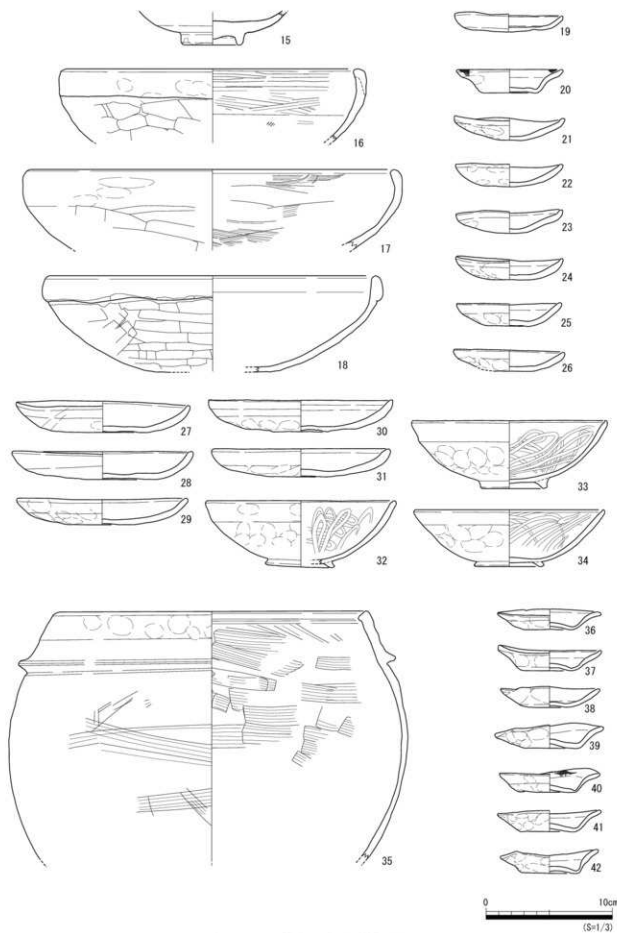
今回の調査では13世紀（鎌倉時代）、14世紀（室町時代前期）、15世紀（室町時代後期）の3時期の遺構、遺物が確認された。

室町時代後期（15世紀）について、今回の調査では2調査区SD2-3、SK2-5など主に2調査区の南西よりで確認されている。基本土層2層めの灰白色粘質土を切り込む遺構であり、遺物はわずかであるが2調査区SK2-7も該当する。

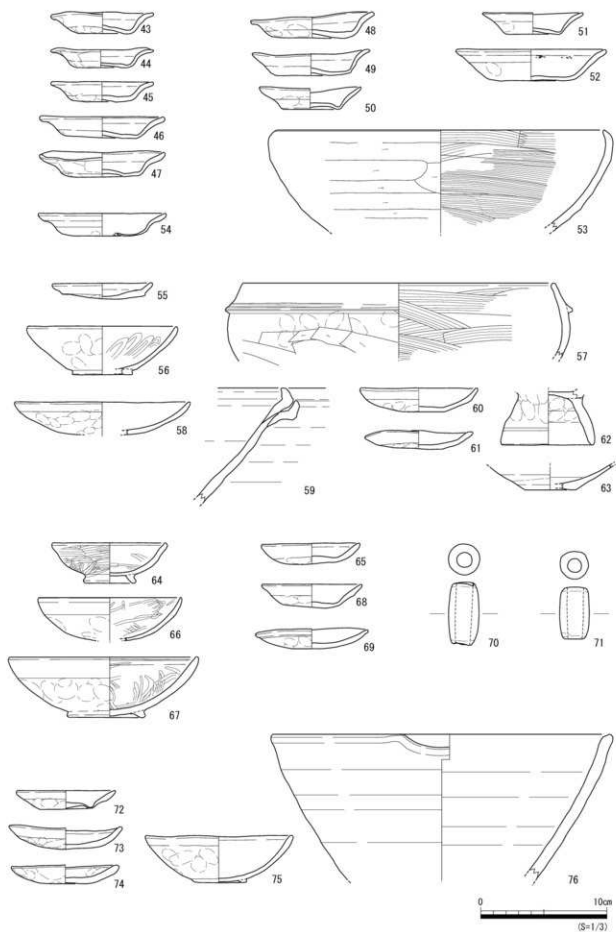
これまでの寺田遺跡の調査では、寺田遺跡1次調査第2遺構面の第4段階において3間×3間の建物が確認されており、寺田遺跡9次調査では高畠氏が居城とした小田城に関する溝や掘立柱建物、井戸が確認されている。寺田遺跡13次調査でもPitや土壇が多く確認されていることから、小田神社と小田城を中心に現在の小田町集落の原型が出来上がっていたと考えている。今回の調査では同時代の集落が広がっていた可能性が考えられるが、調査の結果、調査地全体の北を流れる流路と南の落ち込みに挟まれた30m程の間に遺構密度の高い部分が認められたが、室町時代後期の遺構の割合が少なかったことから今回の調査地は集落の中でも端に近い場所で、土壇や水路を中心とした生産域に近い場所であると考えられる。



第14図 1調査区 出土遺物



第15図 2調査区 出土遺物(1)



第 16 図 2 調査区 出土遺物 (2)

番号	調査区	出土遺構	器種	器形	残存率	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胎土	焼成	調整	色調	年代	備考
1	1	SK1-2	土師器	皿	4/5	8.20	-	1.30	やや密	普通	ナデ、ユビオサエ	(内外面)浅黄褐色 10YR5/3 (断面) 灰 10Y5/1	13c	
2	1	SK1-3	瓦質土器	羽釜	小片	23.20	-	残存高 4.70	密	良好	ナデ、ヘラケズリ、ハケメ	(内外面) 灰黄 2.5Y7/2 ～灰 7.5Y5/1 (断面) 灰 2.5Y4/1	13c	～φ 1mmの砂粒含む
3	1	SK1-5	土師器	焙烙	口縁部 1/6	24.80	-	残存高 8.10	密	良好	ヨコナデ、ヘラケズリ、ハケメ	灰白 2.5Y8/2	13c	～φ 2mmの石粒含む
4	1	SK1-5	陶器 (信楽)	押鉢	底部 小片	-	14.60	残存高 4.90	密	良好	ナデ、回転ナデ	(内面) にびい 黄 5YR7/3 (外面) 黄 5YR7/6 (断面) 灰白 2.5Y7/1	16c	φ 1.5～4mmの石粒含む。縄文、内面は使用により摩滅、信楽
5	1	SR1-1	土師器	皿	ほぼ完形	7.80	-	1.50	やや密	普通		浅黄褐色 10YR5/3	13c	φ 1mm程の石粒含む。全体に摩滅激しく調整不明
6	1	SR1-1	黒色土器	椀	1/6	13.80	-	残存高 3.90	密	良好	ナデ、ヨコナデ、ユビオサエ	灰白 2.5Y8/2	13c	内面に暗文を施すと思われるが摩滅
7	1	SR1-1	土師器	台付皿	底部 1/1	-	5.90	残存高 3.30	やや密	良好	ナデ、ユビオサエ	灰白 2.5Y8/2	13c	φ 1mmの石粒含む
8	1	PI-12	黒色土器	椀	小片	11.90	-	残存高 2.40	やや密	良好	ナデ、ヨコナデ、ユビオサエ、内面に暗文	灰白 10YR5/2	13c	口縁端部に沈線、煤付着
9	1	PI-17	黒色土器	椀	小片	11.00	-	残存高 3.20	やや密	良好	ヨコナデ、ユビオサエ、内面に暗文	灰白 10YR5/2	13c	貼り付け高台、口縁端部に煤付着
10	1	PI-17	黒色土器	椀	小片	9.80	-	残存高 2.60	密	良好	ヨコナデ、ユビオサエ、内面に暗文	(内面) 灰黄褐色 10YR5/2 (断面) 灰白 2.5Y8/2	13c	
11	1	PI-28	土師器	皿	完形	7.80	5.40	1.60	密	良好	ナデ、ヨコナデ、ユビオサエ	浅黄 2.5Y7/3	13c	
12	1	遺検時	黒色土器	椀	5/6	14.30	5.00	4.60	やや密	良好	ナデ、ヨコナデ、ユビオサエ	灰白 2.5Y8/2	13c	貼り付け高台、内面に暗文を施すが、摩滅激しい
13	1	遺検時	土師器	皿	1/3	15.80	-	3.20	やや密	良好	ナデ、ヨコナデ、ユビオサエ	灰黄褐色 10YR6/2	13c	～φ 1mmの砂粒含む
14	1	表土	土師器	皿	5/6	14.80	-	3.10	密	良好	ナデ、ヨコナデ、ユビオサエ	灰白 10YR5/2	13c	
15	2	SK2-3	青磁	碗	底部 1/1	-	4.50	残存高 2.60	密	良好	ロクロナデ	灰 5Y6/	15c	削り出し高台、内外面施釉
16	2	SK2-3	土師器	焙烙	小片	23.20	-	残存高 5.70	密	良好	ヨコナデ、ユビオサエ、ヘラケズリ、ハケ後ナデ消し	(内面) にびい 黄 7.5YR6/4 ～黒褐色 10YR1/1 (断面) 灰白 10YR5/2	15c	外面全体に煤付着
17	2	SK2-3	土師器	焙烙	小片	28.90	-	残存高 6.20	密	良好	ヨコナデ、ユビオサエ、ヘラケズリ、ハケ後ナデ消し	にびい 黄褐色 10YR6/4 ～灰 10YR4/1	15c	外面全体に煤付着
18	2	SK2-3	土師器	焙烙	1/6	25.80	-	残存高 7.60	密	良好	浅黄褐色 10YR5/3 ～灰 2.5Y4/1		15c	
19	2	SK2-5	土師器	皿	ほぼ完形	8.40	5.80	1.60	密	良好	ナデ、ヨコナデ、ユビオサエ	浅黄 2.5Y8/3	13c	
20	2	SK2-8	土師器	皿	1/3	8.20	4.20	1.85	密	良好	ナデ、ヨコナデ、ユビオサエ	灰白 2.5Y8/2	15c	口縁煤付着
21	2	SK2-8	土師器	皿	ほぼ完形	8.60	-	1.90	密	良好	ヨコナデ、ユビオサエ	浅黄 5YR5/4	13c	粘土積層あり
22	2	SK2-8	土師器	皿	完形	8.40	-	1.90	やや密	良好	ナデ、ヨコナデ、ユビオサエ	灰白 10YR5/2	13c	
23	2	SK2-8	土師器	皿	ほぼ完形	8.40	-	1.90	やや密	良好	ナデ、ヨコナデ、ユビオサエ	浅黄褐色 7.5YR5/4	13c	全体に摩滅
24	2	SK2-8	土師器	皿	完形	8.40	2.70	1.90	密	良好	ナデ、ヨコナデ、ユビオサエ	浅黄褐色 10YR5/3	13c	粘土積層あり
25	2	SK2-8	土師器	皿	4/5	8.20	3.40	1.85	密	良好	ヨコナデ、ユビオサエ	浅黄褐色 7.5YR5/3	13c	
26	2	SK2-8	土師器	皿	3/4	8.60	3.20	1.75	密	良好	ナデ、ヨコナデ、ユビオサエ、内面ナデ消し	灰白 2.5Y8/2	13c	
27	2	SK2-8	土師器	皿	完形	13.70	6.80	2.50	密	良好	ナデ、ヨコナデ、ユビオサエ	灰白 10YR5/2	13c	
28	2	SK2-8	土師器	皿	5/6	14.20	9.70	2.30	密	良好	ナデ、ヨコナデ、ユビオサエ	灰白 2.5Y8/2	13c	
29	2	SK2-8	土師器	皿	1/2	13.40	5.10	2.10	密	良好	ナデ、ヨコナデ、ユビオサエ	灰白 2.5Y8/3 ～浅黄褐色 7.5YR5/6 (被熱部分) 灰 2.5Y4/1	13c	内面煤付着
30	2	SK2-8	土師器	皿	1/2	14.40	8.80	2.50	密	良好	ナデ、ヨコナデ、ユビオサエ	にびい 黄褐色 10YR7/2 ～暗灰黄 2.5Y5/2	13c	内外面煤付着、外面底部ヘラ削
31	2	SK2-8	土師器	皿	1/2	13.80	5.00	2.20	密	良好	ナデ、ヨコナデ、ユビオサエ	灰白 10YR5/2	13c	

番号	調査区	器種	器形	残存率	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胎土	焼成	調整	色調	年代	備考
32	2	SK2-8	黒色土器	椀	ほぼ 完形	14.90	5.10	5.30	やや 密	普通	外面ヨコナデ、ユビオサエ、内面に暗文 (内面) 焼灰 10YR4/1 ～黒 10YR2/1 (外面) 灰白 10YR8/2 ～灰 5/1	13c	貼り付け高台。口縁部沈線あり
33	2	SK2-8	黒色土器	椀	ほぼ 完形	15.30	4.85	5.40	やや 密	良好	外面ヨコナデ、ユビオサエ、内面に暗文 (内面) 焼灰 5YR6/1 ～黒 5YR2/1 (外面) 浅黄緑 7.5YR8/3 ～焼灰 5YR6/1	13c	φ2mm程度の小石含む。貼り付け高台、口縁部沈線あり
34	2	SK2-8	黒色土器	椀	1/3	15.00	5.20	4.50	やや 密	普通	外面ヨコナデ、ユビオサエ、内面に暗文 (内面) 焼灰 7.5YR6/1 ～第7.5YR2/1 (外面) 灰白 2.5YR8/2 ～焼灰 7.5YR6/1	13c	φ2mm程度の小石含む。貼り付け高台、口縁部沈線あり
35	2	SK2-8	土師器	羽釜	2/3	24.40	-	残存高 19.60	やや 密	良好	ヨコナデ、ユビオサエ、ハケメ、ハケメ後ナデ にふい黄緑 10YR7/2 ～オリブ黒 5Y3/2	13c	内外面煤付着
36	2	SD2-2	土師器	皿	完形	8.00	3.70	1.60	密	良好	ナデ、ヨコナデ、ユビオサエ 灰白 2.5YR/2	15c	底部に孔、口縁部に欠け
37	2	SD2-2	土師器	皿	3/4	8.00	4.00	2.00	密	良好	ナデ、ヨコナデ、ユビオサエ 浅黄緑 10YR8/3	15c	
38	2	SD2-2	土師器	皿	完形	7.80	3.30	1.70	密	良好	ナデ、ヨコナデ、ユビオサエ 灰白 2.5YR/2 ～灰白 2.5Y7/1	15c	
39	2	SD2-2	土師器	皿	ほぼ 完形	8.40	4.20	2.00	密	良好	ナデ、ヨコナデ、ユビオサエ 灰白 10YR8/2	15c	
40	2	SD2-2	土師器	皿	完形	7.80	4.30	1.90	密	良好	ナデ、ヨコナデ、ユビオサエ 灰白 2.5YR/2	15c	口縁端部に煤付着
41	2	SD2-2	土師器	皿	ほぼ 完形	8.10	4.20	1.70	密	良好	ナデ、ヨコナデ、ユビオサエ 灰白 2.5YR/2	15c	
42	2	SD2-2	土師器	皿	ほぼ 完形	7.70	4.40	1.90	密	良好	ナデ、ヨコナデ、ユビオサエ 灰白 2.5YR/2	15c	
43	2	SD2-2	土師器	皿	2/3	8.00	4.10	1.70	密	良好	ナデ、ヨコナデ、ユビオサエ 浅黄緑 7.5YR8/3 ～灰黄緑 10YR6/2	15c	
44	2	SD2-2	土師器	皿	1/2	8.10	4.20	1.60	密	良好	ナデ、ヨコナデ、ユビオサエ、ハケメ 灰白 2.5YR/2	15c	
45	2	SD2-2	土師器	皿	1/3	8.00	4.50	1.60	密	良好	ナデ、ヨコナデ、ユビオサエ 灰白 2.5YR/2	15c	
46	2	SD2-2	土師器	皿	3/4	9.70	5.60	1.80	密	良好	ナデ、ヨコナデ、ユビオサエ 浅黄緑 10YR8/3	15c	
47	2	SD2-2	土師器	皿	5/6	9.80	5.40	2.10	密	良好	ナデ、ヨコナデ、ユビオサエ、ハケメ 灰黄 2.5Y7/2	15c	
48	2	SD2-2	土師器	皿	2/3	9.60	5.40	2.10	密	良好	ナデ、ヨコナデ、ユビオサエ 灰白 2.5YR/2	15c	
49	2	SD2-2	土師器	皿	3/4	9.10	5.80	2.10	密	良好	ナデ、ヨコナデ、ユビオサエ 灰白 10YR8/2	15c	摩滅激しい
50	2	SD2-2	土師器	皿	ほぼ 完形	8.00	4.30	1.80	やや 密	普通	ヨコナデ、ユビオサエ 浅黄緑 7.5YR8/4	15c	内外面摩滅
51	2	SD2-2	土師器	皿	2/3	7.80	4.20	1.70	密	良好	ヨコナデ、ユビオサエ 浅黄緑 10YR8/3 ～にふい 10YR6/3	15c	内外面摩滅
52	2	SD2-2	土師器	皿	1/2	11.60	4.80	2.50	やや 密	良好	ナデ、ヨコナデ、ユビオサエ 浅黄緑 10YR8/3	15c	内外面煤付着摩滅。剥離激しい
53	2	SD2-3	土師器	焙烙	1/5	26.00	-	残存高 7.90	密	良好	内面ハケメ。外面ヘラケズリ (内面) 浅黄緑 10YR8/3 ～黒 7.5YR7/6 (外面) 黒 10YR1.7/1	15c	外面煤付着
54	2	SD2-5	土師器	皿	1/4	10.10	4.20	1.80	密	良好	ナデ、ヨコナデ、ユビオサエ (内面) 浅黄緑 10YR8/4 (外面) 灰白 10YR8/2 (胎土) 灰 5/1	15c	
55	2	SR2-1	土師器	皿	ほぼ 完形	7.80	-	1.30	やや 密	普通	ナデ、ヨコナデ、ユビオサエ 浅黄緑 7.5YR8/4	14c	
56	2	SR2-1	黒色土器	椀	1/5	11.80	4.60	3.85	やや 密	普通	ヨコナデ、ユビオサエ、内面に暗文 (内面) 焼灰 10YR6/1 (外面) 浅黄緑 10YR8/3 ～焼灰 10YR6/1	14c	貼り付け高台
57	2	SR2-1	土師器	焙烙	1/6	24.80	-	残存高 5.80	やや 密	普通	内面ハケメ。外面ヨコナデ、ユビオサエ、ヘラケズリ (内面) 焼 5YR7/6 (外面) 灰白 10YR8/2	13c	
58	2	SR2-1	土師器	皿	1/2	13.80	-	残存高 2.60	やや 密	良好	ナデ、ヨコナデ、ユビオサエ 灰白 2.5YR/1	13c	
59	2	SR2-1	東播磨須恵器	程鉢	-	-	-	残存高 9.00	密	良好	回転ナデ 灰 5/1 ナデ、ヨコナデ、ユビオサエ 灰白 7.5YR8/2 ～浅黄緑 7.5YR8/3	13c	口径不明、片口あり
60	2	SR2-2	土師器	皿	完形	9.20	3.20	1.90	やや 密	普通	ナデ、ヨコナデ、ユビオサエ 灰白 7.5YR8/2 ～浅黄緑 7.5YR8/3	13c	

番号	調査区	出土遺構	器種	器形	残存率	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胎土	焼成	調整	色調	年代	備考
61	2	SR2-2	土師器	皿	ほぼ完形	8.40	3.40	1.50	やや密	良好	ナデ、ヨコナデ、ユビオサエ	灰白 7.5YR8/2 ～ 浅黄緑 7.5YR8/3	13c	
62	2	SR2-2	土師器	台付皿	底部のみ	-	7.10	残存高 4.25	やや密	普通	貼付け部分内面 ユビオサエ後ヨコナデ、外面ヨコナデ、ユビオサエ	灰白 2.5YR8/2	13c	上部貼り付け、外面沈線あり
63	2	SR2-2	白磁	皿	底部 1/2	-	4.00	残存高 1.80	密	良好	ロクロナデ	(胎土) 灰白 7.5Y7/1 (釉) 灰白 7.5Y7/2	12c	内面見込沈線の後編軸、外面編軸
64	2	P2-1	黒色土器	椀	1/3	8.90	3.80	3.20	密	良好	外面ヨコナデ、ユビオサエ、ミガキ	褐灰 10YR5/1 ～ 褐灰 10YR4/1	13c	内面見込沈線の後編軸、貼り付け高台、口縁部沈線あり
65	2	P2-5	土師器	皿	1/3	7.70	4.20	1.70	密	良好	ナデ、ヨコナデ、ユビオサエ	浅黄緑 7.5YR8/4	12c	
66	2	P2-6	黒色土器	椀	小片	11.20	-	残存高 3.40	密	良好	ヨコナデ、ユビオサエ、内面に暗文	(断面) 灰白 2.5YR8/2	14c	内外面埋付着
67	2	P2-39	黒色土器	椀	1/2	14.70	5.90	4.80	やや密	良好	ヨコナデ、ユビオサエ、内面に暗文	(断面) 浅黄緑 10YR8/3	13c	口縁部沈線あり、外面埋付着
68	2	P2-40	土師器	皿	4/5	7.90	2.90	1.90	密	普通	ナデ、ヨコナデ、ユビオサエ	にぶい・椀 7.5YR7/4	14c	
69	2	P2-47	土師器	皿	ほぼ完形	8.90	2.00	1.65	密	普通	ナデ、ヨコナデ、ユビオサエ	灰白 10YR8/2 ～ 浅黄緑 7.5YR8/3	13c	
70	2	P2-9	土師器	土罐	完形	長さ 5.00	幅 2.40	厚さ 2.40	密	良好	ナデ	灰白 5YR8/1	-	端部に細痕
71	2	P2-32	土師器	土罐	完形	長さ 4.10	幅 2.30	厚さ 2.20	密	良好	ナデ	灰白 10YR8/1	-	
72	2	遺検時	土師器	皿	完形	7.70	4.00	1.50	密	普通	ナデ、ヨコナデ、ユビオサエ	灰白 10YR8/2 ～ 浅黄緑 10YR8/4	15c	
73	2	遺検時	土師器	皿	ほぼ完形	8.80	-	1.90	密	普通	ナデ、ヨコナデ、ユビオサエ、ハケナデ	灰白 2.5YR8/1	13c	
74	2	遺検時	土師器	皿	完形	8.30	3.50	1.50	密	良好	ナデ、ヨコナデ、ユビオサエ	灰白 2.5YR8/1	13c	
75	2	遺検時	黒色土器	椀	完形	11.60	4.20	3.70	やや密	普通	ヨコナデ、ユビオサエ	灰白 10YR8/2 ～ 褐灰 10YR8/1	14c	貼り付け高台、内面数分等全面埋付着
76	2	遺検時	陶器 (信楽)	西鉢	1/5	26.80	-	残存高 11.40	やや粗	良好	回転ナデ	椀 2.5YR6/6 ～ 赤灰 2.5YR4/1	15c	φ 4 mm程度の小石含む、片口

写真のみ掲載

番号	調査区	出土遺構	器種	器形	残存率	長さ (cm)	幅 (cm)	胎土	焼成	色調	年代	備考
77	1	SK1-2	土師器	土罐	ほぼ完形	3.60	0.75	密	良好	にぶい・椀 5YR6/4 ～ 褐灰 10YR5/1	不明	
78	1	SD1-1	土師器	土罐	完形	3.10	0.70	密	良好	椀 5YR6/6	不明	
79	1	SD1-1	土師器	土罐	ほぼ完形	2.60	0.70	密	良好	浅黄緑 5YR8/4	不明	
80	1	SD1-1	土師器	土罐	ほぼ完形	3.40	0.95	やや密	良好	灰白 10YR8/1	不明	φ 1.5 mmの小石含む
81	1	SD1-3	土師器	土罐	完形	3.50	1.20	やや密	良好	灰白 10YR8/1	不明	
82	1	SR1-1	土師器	土罐	完形	3.10	0.70	密	良好	椀 2.5YR6/6	不明	
83	1	SR1-1	土師器	土罐	ほぼ完形	2.50	0.65	密	良好	にぶい・椀 2.5YR6/4 ～ 赤灰 2.5YR5/1	不明	
84	1	SR1-1	土師器	土罐	完形	2.20	0.60	密	良好	椀 5YR6/6 ～ 灰 5Y5/1	不明	
85	1	SR1-1	土師器	土罐	完形	3.10	0.70	やや密	良好	椀 2.5YR6/6	不明	φ 3 mmの小石含む
86	1	P28	土師器	土罐	完形	3.35	0.70	密	良好	椀 2.5YR6/6 ～ 灰 NS/	不明	
87	1	P28	土師器	土罐	完形	2.80	0.65	密	良好	椀 2.5YR6/6 ～ 赤灰 2.5YR6/1	不明	
88	1	遺検時	土師器	土罐	ほぼ完形	2.80	0.60	密	良好	浅黄緑 7.5YR8/4 ～ 椀 2.5YR6/6 (胎土) 灰 NS/	不明	
89	1	遺検時	土師器	土罐	完形	4.30	1.00	密	良好	浅黄緑 5YR8/3	不明	
90	1	遺検時	土師器	土罐	完形	2.50	0.65	密	良好	にぶい・椀 5YR6/4 ～ オリーブ灰 2.5G15/1	不明	
91	1	遺検時	土師器	土罐	完形	3.20	0.60	密	良好	椀 5YR6/6	不明	
92	1	遺検時	土師器	土罐	完形	3.35	0.70	密	良好	にぶい・黄緑 10YR6/4	不明	
93	2	遺検時	土師器	土罐	完形	3.30	0.60	密	良好	浅黄緑 10YR8/3 ～ 椀 5YR6/6	不明	
94	2	遺検時	土師器	土罐	完形	3.00	0.70	密	良好	椀 5YR6/8 ～ 灰 NS/	不明	

表 2 出土遺物観察表

室町時代前期（14世紀）について、1調査区のSB1-1、SD1-1、SD1-3、2調査区のSD2-1、SR2-1とPitなどで確認されている。基本土層2層めの灰白色粘質土層には同時期の遺物が含まれており砂も混じっていることから、洪水堆積層と考えられ、全般的には南北方向に流路を含む大きな氾濫により集落の一部が流されている可能性が考えられる。2調査区のSR2-2の下からはPitが確認されており、SR2-2によって壊されている可能性がある。

これまでの寺田遺跡の調査では、寺田遺跡1次調査の第3段階の第5遺構面において小田神社に関わる可能性のある参道の石敷き遺構のほか、4、7、8、9、13次調査で同時代の遺構が確認されている。今回の調査ではSB1-1とSD1-3といった建物と溝のような関連性のある遺構を確認しており、他に建物の確認こそ至らなかったものの多くのPitも検出していることから、今回の調査地においても集落が広がっていたと考えられる。

また、室町時代後期（15世紀）については、1調査区SK1-5、2調査区SK2-3、SD2-2、SD2-3、SD2-5で確認している。SD2-2では、同じ形状の土師皿が何枚も完形でまとまって出土している祭祀を思わせる遺構も確認されている。

鎌倉時代（13世紀）について、今回の調査では1調査区SK1-1、SK1-2、SK1-3、SK1-9、SR1-1、また2調査区SR2-2、SK2-8とPitを確認している。

これまでの寺田遺跡の調査においては、寺田遺跡1次調査の第6段階の第4遺構面、第7段階の第5遺構面において鍛冶遺構や柱穴が検出されたことに始まり4、5、7、8、12、13次調査で同時代の遺構が確認されていることから、寺田遺跡の中でも一定の広がりが見られる。今回の調査では基本土層2層めの灰白色粘質土層に切られている遺構の多くはこの時代に該当する。2調査区北壁から検出したSK2-8は、同時代の土器が重った状態で集中して出土しており、何らかの祭祀が行われた可能性がある。また、1調査区SK1-3やSK1-11のように調査区外に大きくひろがる土壌や、SR1-1を確認したが、SR1-1の下からPitや土壌が確認されていることから、鎌倉時代においても氾濫による攪乱が起きていた可能性が考えられる。

他の寺田遺跡の調査で見られた平安時代や奈良時代、古墳時代といった遺物や遺構は今回確認できなかったが、今回は鎌倉時代から室町時代の中世の時期に調査地全体30m程の間にPitや土壌を確認した。寺田遺跡全体の中でも南側にあたる部分の調査であったが、集落の広がりを考える上で貴重な成果となった。



1・2調査区 全景(俯瞰)



1調査区 全景(俯瞰)



1調査区 全景(西から)



1調査区 SK1-2 (北から)



1調査区 P1-28 (北西から)



2調査区 全景(俯瞰)



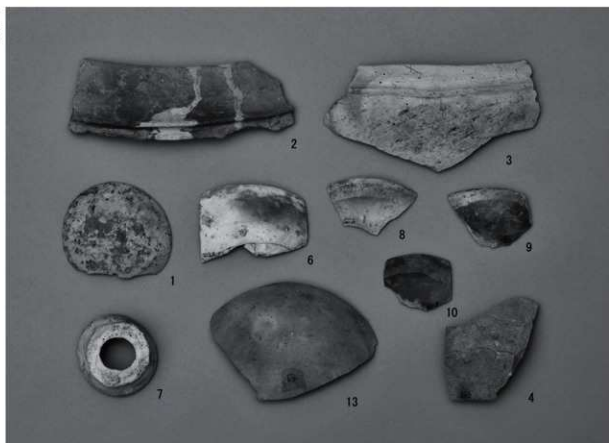
2調査区 全景(東から)



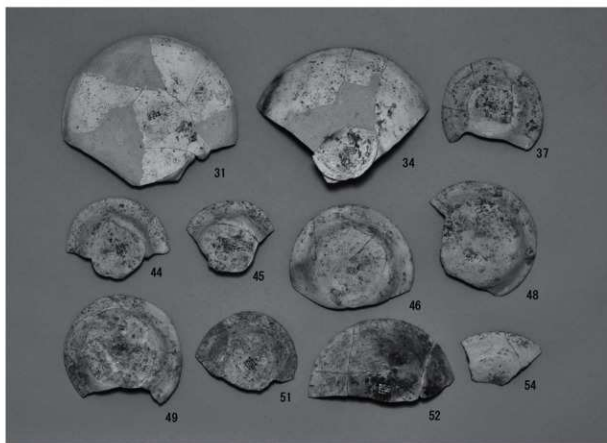
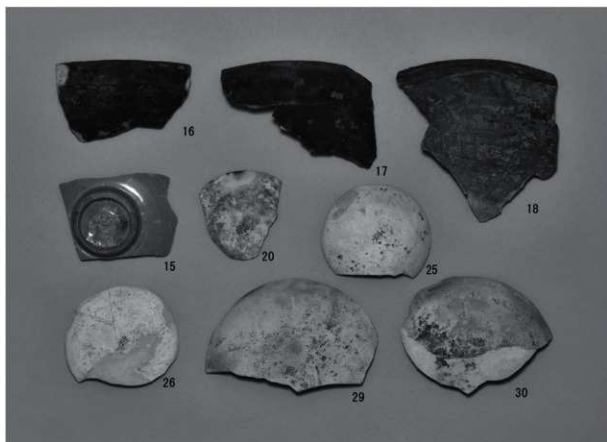
2調査区 SK2-8 (北東から)



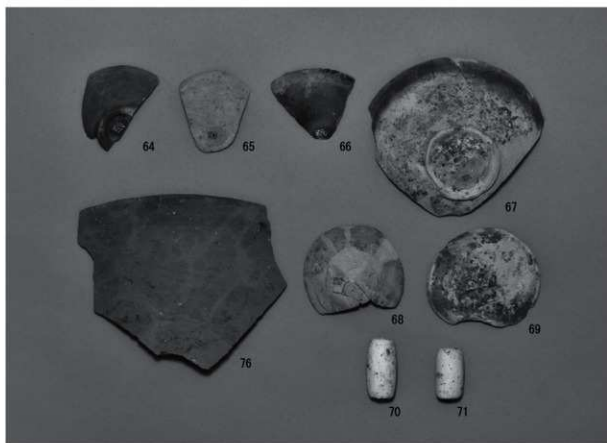
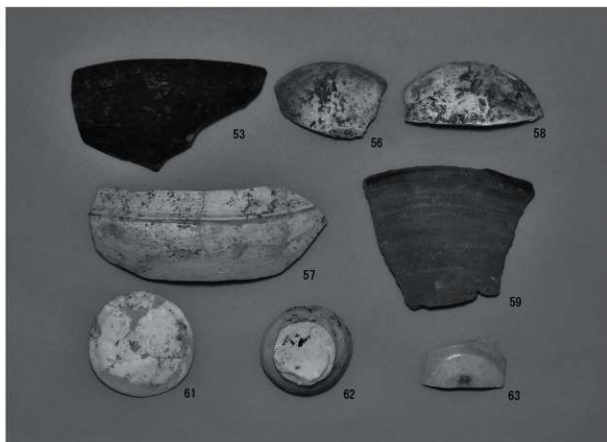
2調査区 SR2-2 (北西から)



1調査区 出土遺物



2調査区 出土遺物



2調査区 出土遺物



19



21



22



23



24



27



28



36



38



39



2調査区 出土遺物



2調査区 出土遺物



72



73

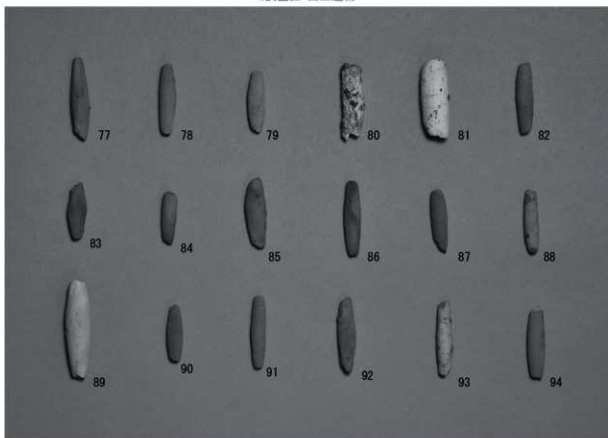


74



75

2調査区 出土遺物



1・2調査区 出土遺物（写真のみ掲載）

報 告 書 抄 録

ふりがな	てらだいせき 14 じはっくつちょうさほうこくしよ							
書名	寺田遺跡 14 次発掘調査報告書							
シリーズ名	近江八幡市埋蔵文化財発掘調査報告書 76							
シリーズ番号	76							
編著者名	森山宗保							
発行機関	近江八幡市総合政策部文化振興課							
所在地	滋賀県近江八幡市桜宮町 236 (25204)							
発行年月日	令和 5 年 (2023 年) 3 月							
所収遺跡名	所在地	コード		世界測地系		調査期間	調査面積	調査原因
		遺跡番号		北緯	東経			
寺田遺跡 14 次	江頭町地先	204	092	35° 06' 48"	136° 03' 09"	2021/4/9 ~ 5/28	633.6 m ²	宅地造成 分譲住宅
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
寺田遺跡 14 次	集落跡	鎌倉、室町		溝跡、土壇、柱跡、 掘立柱建物		土師器、陶磁器、黒色土器		

近江八幡市埋蔵文化財発掘調査報告書 76

寺 田 遺 跡 14 次 発 掘 調 査 報 告 書

編集・発行 近江八幡市
近江八幡市桜宮町 236

発行年月日 令和 5 年 3 月 31 日

印刷・製本 (有) 東興竹堂 (ひがし印刷)